

# 一般質問とは

議員は、年4回開かれる定例会で、市の行政全般について質問する権限を持っています。

質問では、疑問点を質すことと自己の意見を述べることができません。高梁市議会では、議員の質問時間を40分以内(執行部の答弁は除く)とし、一項目ごとに質問、答弁を行う「一問一答式」で行なわれています。

質問は、市の一般事務であれば、なんでも聞くことが出来ますが、事前に質問内容を、一般質問通告書として議長に提出する必要があります。質問によく似た言葉に質疑がありますが、質疑は議題となった議案について疑問点を聞くことであり、質問のように意見を述べることは出来ません。

このように、議会では一定のルールに基づいて運用されています。

## 第29号の記事の訂正について

議会だより2017年2月号(第29号)5ページの全員協議会に関する記事の中で、成羽複合施設(仮称)に集約される主な施設の一つとして『成羽文化センター(昭和41年建設)』と記載しました。他方、議会全員協議会やまちづくり協議会での説明で用いた「成羽複合施設(仮称)の基本的な考え方」の中では『成羽公民館』と記載されており、両者の整合性についてご指摘をいただきました。現在、成羽文化センターの敷地内には成羽文化センターの①本館②別館③ホールの3つの建物があり、『成羽文化センター(昭和41年建設)』も『成羽公民館』も成羽文化センターの本館のことです。紛らわしい表現となったこととお詫びします。

**Q. 国は民間委託や指定管理者制度へ移行させようとしているが**  
**A. 市の行財政改革の中で検討する**



ここを聞きました

- 来年度予算の収入について
- 防災ラジオについて
- 鳥獣対策について
- いきいき高齢者外出支援事業(バス・タクシー券)について

### 「トップランナー方式」について

**宮田** トップランナー方式とは、交付税算定対象の23業務について、民間委託や指定管理者制度の導入などが進んだ状況を基準財政需要額の単位費用に反映させるものである。

平成28年度から16業務が対象になっているが、本市にとってどのような影響があるのか。

**市長** 16業務のうち12業務は平成28年度から段階的に単位費用の見直しが行われていて、その影響額は、約1900万円と理解している。

**宮田** この方式は、自治体業務を民間委託等へ移行させ、

トップランナー方式の主な対象業務	
本庁舎の清掃	
本庁舎の夜間警備	
案内・受付	
電話交換	
公用車運転	
し尿収集	
一般ごみ収集	
学校給食(調理)	
学校給食(運搬)	
学校用務員事務	
道路維持補修・清掃等	
情報処理・庁内システム維持	
体育館	
競技場	
プール	
大規模公園	
2017年度以降の検討業務	
図書館	
博物館	
公民館・市民会館	
児童館・児童遊園管理	

人件費などの削減を求めているが、市の考え方はどうか。  
**市長** 項目に上げられたものについて、どのような形に持っていくかというのは、行財政改革の中で検討すべき事項と考えていて、委託にするのか、市の業務として維持していくのかといったことを判断せざるを得ないと考える。  
新年度からの行財政改革の中で、高梁市としてのあり方というものを立てた上で進めて行きたい。

**Q. 高梁市で人工透析が多い理由は?**  
**A. 特定健診の受診率が低く重症化しやすい**



ここを聞きました

- 生活習慣病予防について
- 教育現場へのICT機器導入について
- インバウンド観光について
- 高梁市公共施設等総合管理計画(案)の概要について

### 糖尿病予防で健康づくりと国保の健全化を目指すべき

**石井** 高梁市では、国保加入者の人工透析率が高梁市に比べて高いが、どう分析しているか。

**政策監** 特定健康診断の受診率が低く、重症化しやすい傾向にあると考えられる。

**石井** 血液検査での生活習慣病を表す数値も悪い。

**政策監** 高梁市では、男女ともにどの年代にも運動習慣のない人が多く、男性では栄養バランスを考えた食事をする人が低い。満腹まで食べる傾向があり、野菜など副菜が不足しがち、脂質の摂取率が高いという傾向がある。運動や食生活週間の積み重ねが結果に現れているのではないか。

**石井** 糖尿病予防のために、市で

どんな活動をしているのか。

**政策監** 料理教室や食生活講習会を年に130回程度行っている。

市内に128人の栄養委員があり、地域で啓発活動をしている。運動に関しては、年間90回程度各地で健康に関する講話や指導を行っている。今年度から、運動習慣のない働き盛りを対象に「高梁健康スポーツ講座」を開催した。

**石井** 様々な施策があるが、これだけ悪い数値が出ている以上、まだまだ浸透しているとは言えない。

市内の企業や学校などを巻き込んだ、全市を上げての活動を行うべきではないか。  
**政策監** 基本的には個人がどう気を付けて食事を選んでいくかが重要なので、まずはそこを気を付けて改善に取り組んでいきたい。

**Q. 川上診療所の取り組みをどう評価しているか**  
**A. 地域包括ケアの先駆的な事例として評価している**



ここを聞きました

- 行財政改革における一般会計からの繰り出し金と組織のあり方について
- 成羽病院の改革プランと病床転換のあり方について
- 川上診療所を基軸とした地域包括ケアのあり方について
- Uターンを促す「ふるさと回帰奨学金制度」の創設について

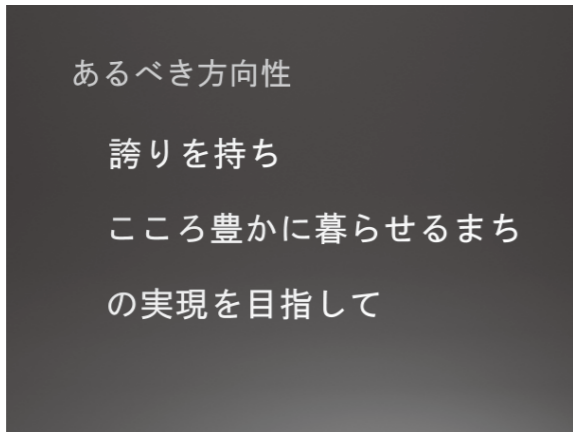
**宮田** 川上診療所では菅原英次所長のもと、積極的な往診や訪問看護により地域包括ケアに取り組んでいる。

この取り組みは「川上方式」と名づけられ、医学生の教科書である「医療経済学・地域医療学」にも掲載されている。

こうした川上診療所の取り組みをどのように評価し、高梁市の地域医療に生かしていくのか。

**政策監** 20年も前から地域包括ケアに取り組まれている先駆的な事例として評価している。

今後の高梁地域の医療政策の推進についても菅原先生の意見を拝聴していきたい。



菅原先生の講演で使われたスライドの一部(抜粋)

あるべき方向性  
誇りを持ち  
こころ豊かに暮らせるまち  
の実現を目指して